

支援が必要なすべての人に  
その人が必要とする支援を みんなで

平成29年2月7日

かぞくねっと「明石市における福祉の動向について」

明石市長 泉 房穂

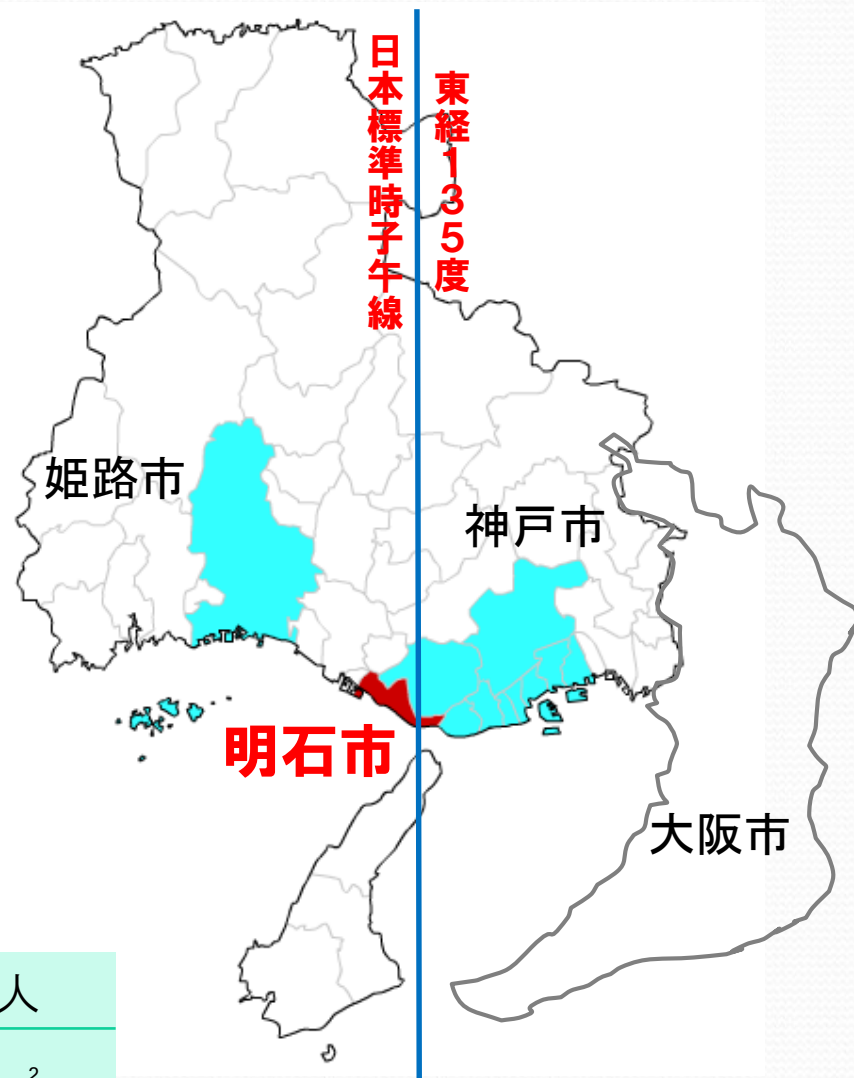
弁護士・社会福祉士

# 自己紹介

## 明石市長 泉 房穂(いずみ ふさほ)

- 1963年 明石市生まれ
- 弁護士
- 社会福祉士
- 元衆議院議員
- 元NHKディレクター
- 2011年より明石市長（現在2期目）
- 柔道3段、手話検定2級、明石タコ検定初代達人

# 明石市のご紹介



人口 約 29万人

面積 約 49 km<sup>2</sup>





## こどもの頃からの思い



『支援が必要な すべての人に、  
その人が必要とする支援を みんなで』

支援が必要なすべての人に、  
その人が必要とする支援を みんなで

1. 支援の対象：すべての人
2. 支援の責任：社会
3. 支援の視点：本人
4. 支援の内容：あれもこれも



支援が必要なすべての人に、  
その人が必要とする支援を みんなで

5. 支援の方法:より早く、より広く、より近く、より深く

①ワンストップ

②チームアプローチ

③アウトリーチ



## 市長としての思い



- ①障害者が暮らしやすい社会をつくる  
のは行政の責任
- ②できることを見つけて、実際に始める
- ③福祉の充実をまちの発展につなげる



障害者が暮らしやすい社会を  
作るのは行政の責任

なくてはならない施策をするのは誰の責任？

 障害者の自己責任

 行政の責任...国だけではなく市



責任者は市長





# 明石市から社会を変える



①現場 VS 政治

②国 VS 県 VS 市

③先進的 VS 普遍性



# 福祉のまちづくりに必要なこと



- ①大義
- ②ひと
- ③カネ
- ④連携
- ⑤みんなの理解





## 具体的な取り組み





# 「明石市手話言語・障害者コミュニケーション条例」

手話言語  
条例

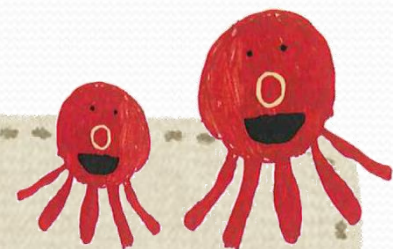


情報  
コミュニケーション  
条例

明石市の



手話言語・障害者  
コミュニケーション条例



# 「明石市障害者配慮条例」

障害者に対する配慮を促進し誰もが  
安心して暮らせる共生のまちづくり条例



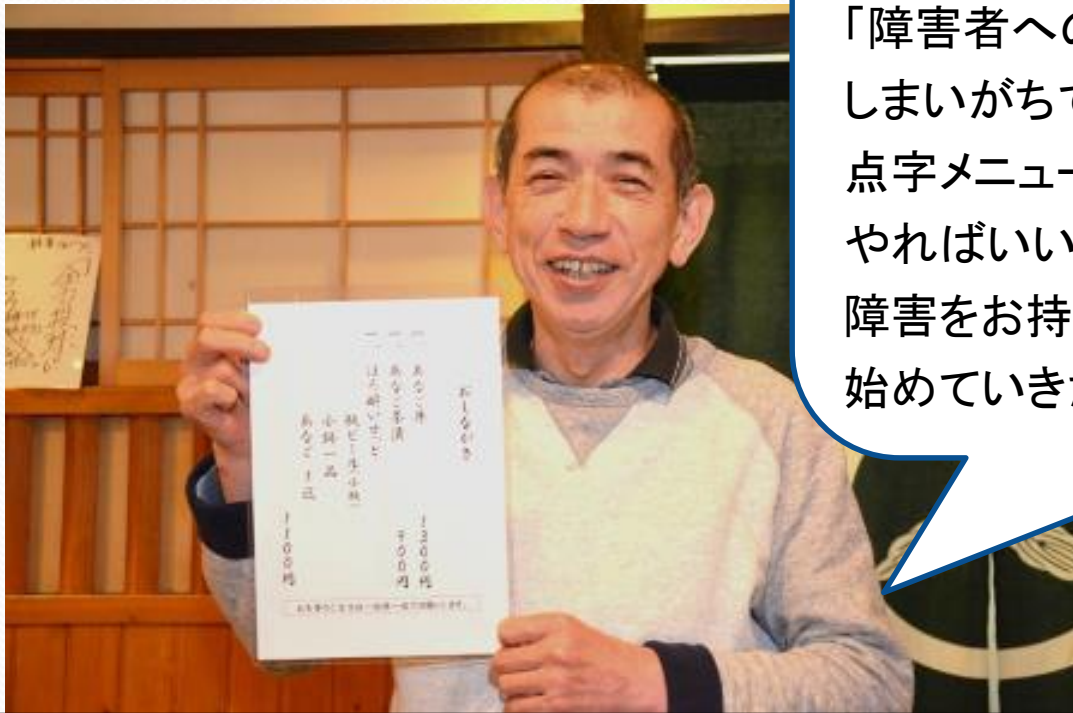
障害者差別解消法に合わせて  
平成28年4月1日スタートしました  
特徴は「合理的配慮の促進」



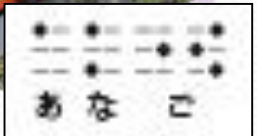


# 明石のまちが変わります

去年参加した条例検討会で、視覚障害のある人の声を直接聞くことができました。「障害者への配慮」と聞くと難しいことと考えてしまいがちですが、例えば点字が読める人に点字メニューを用意するなど、できることをやればいいと気づきました。これからは、他の障害をお持ちの方に対しても、できる配慮から始めていきたいと思います。

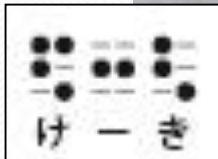


株式会社 林喜商店 代表取締役社長 林 祝雄さん  
(筆談ボードと点字メニューを導入)





# 明石のまちが変わります



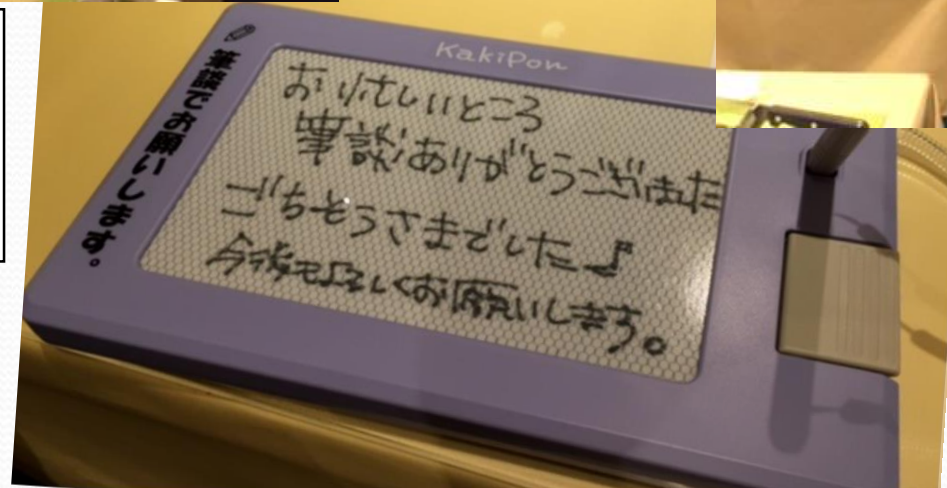
くるみや本店  
入口に折りたたみ式スロープを設置して  
車イスもベビーカーも入りやすくなりました。  
(筆談ボード・点字メニュー・  
折りたたみ式スロープを導入)



# 明石のまちが変わります



イタリアンレストランで  
筆談ボードを利用して  
料理の説明を受ける  
聴覚障害者







## 具体的な取り組み



- 後見支援
- 就労支援
- 居場所づくり
- 医療的支援





# 更生支援



失敗しても、やり直せる  
「おかえりなさい」のまちへ



平成29年度  
法務省のモデル事業スタート



# 活動支援



- ・ あすくの活動拠点  
→生活実態調査事業の委託
- ・ ホームドアの取り組み



当事者・支援者の声を聞いて施策を進めます



## ホームドアの取り組み ～まちが一丸となって～

- 平成28年9月 明石市視覚障害者福祉協会からの請願を  
市議会全会一致で採択  
明石市障害者当事者団体連絡協議会から  
明石市への要望書提出
- 10月 市に公共交通安全対策担当を配置  
明石市議会、市から国土交通大臣に  
要望書を提出
- 12月 市議会、市、商工会議所からJR西日本に  
要望書と障害者団体の署名を提出

# ホームドアの取り組み ~まちが一丸となって~

神 戸 新 聞 2016年(平成28年)12月28日 水曜日

## 目標超す1万1308人の署名 市民の後押しに感謝

### 駅のホームドア

JR明石駅などにホームドアの早期設置を求め、JR西日本に27日渡された1万1308人分の署名。提出した明石市障害者当事者等団体連絡協議会の松本幸雄代表(右)は「目標の5千人分を大きく上回った。市民の大きな後押しに感謝したい」と話した。

(社会面参照)

同協議会は11月6日、同駅周辺で署名活動を開始。各障害者関係団体も個別に活動し、目標を大きく上回る署名を集めた。署名では、ホームドア設置完了までは、駅員にクルマまでの安全な誘導や放送なども求めている。

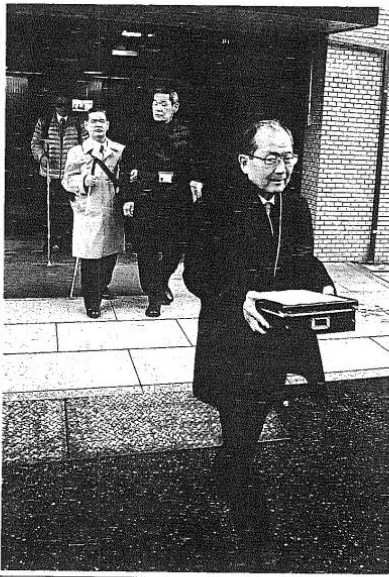
この日は、同市視覚障害者福祉協会の浅生

晴彦会長(64)らがJR西本社(大阪市)を訪問。同様の要望書を提出した泉房穂市長、深山昌明市議会議長、平岡勝功明石商工会議所会頭らも同席した。

出席者はJR明石駅について、死亡事故の発生や視覚障害者の利用の多き、貨物列車の通過などの危険性を指摘。泉市長は、整備費など相応の負担を行う考えを示した上で、「市制100年を迎える2019年度までの整備」を要望した。市によると、JR側は「できるだけ速やかに実現するため、明石市の担当者と調整したい」と前向きな姿勢をみせた。一方で、昇降式の

ホーム柵など具体的な整備方式や時期については言及しなかった。

松本代表は「熱心に話を聞いてもらった。危険性は認識してくれているので期待したい」。浅生会長は「署名の箱はとも重かった。重みが何よりの説



署名を手にも明石市役所を出発する松本幸雄代表(右端)と浅生晴彦会長(右から3人目)ら。いずれも中崎1

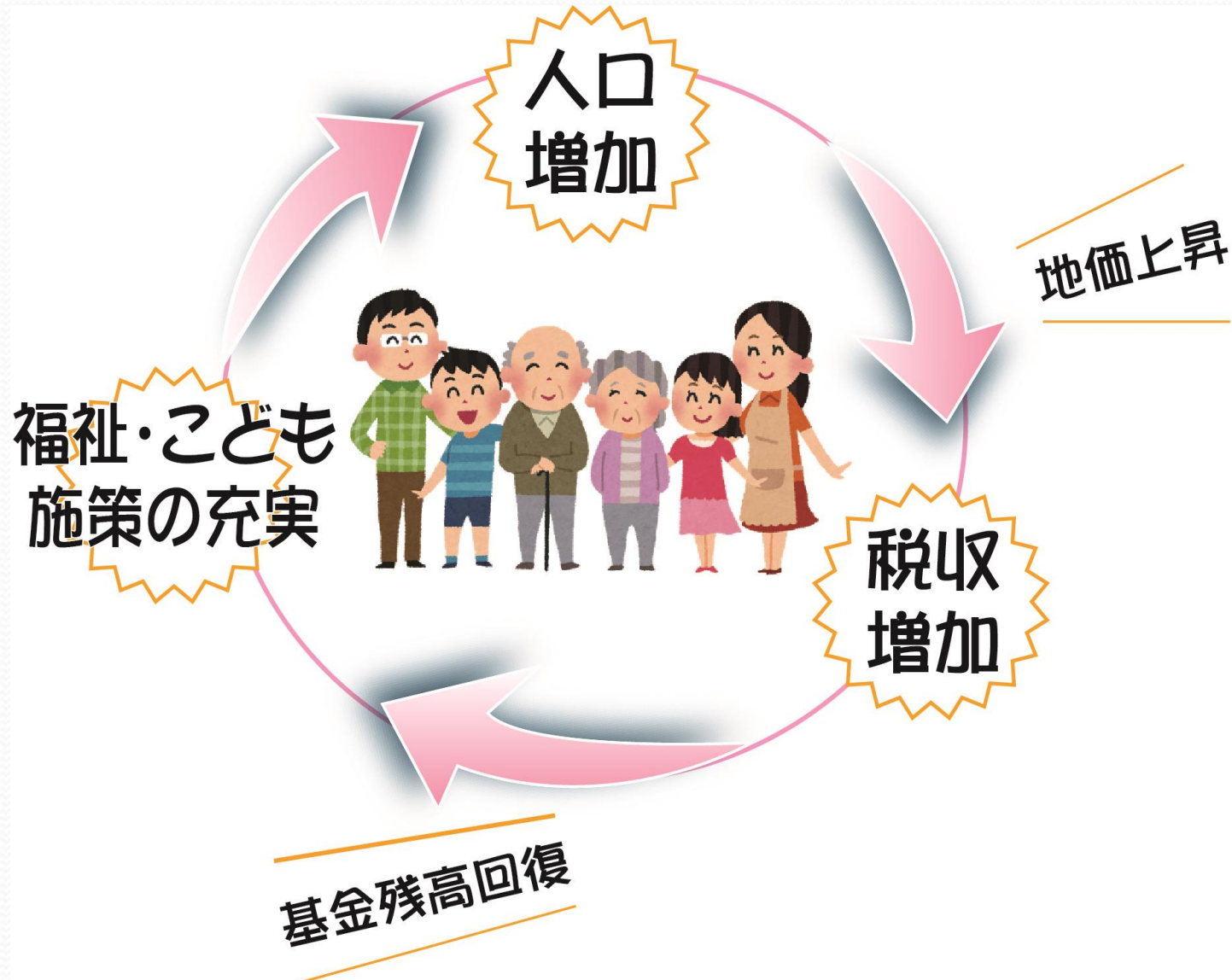


JR西日本に提出した1万1308人分の署名

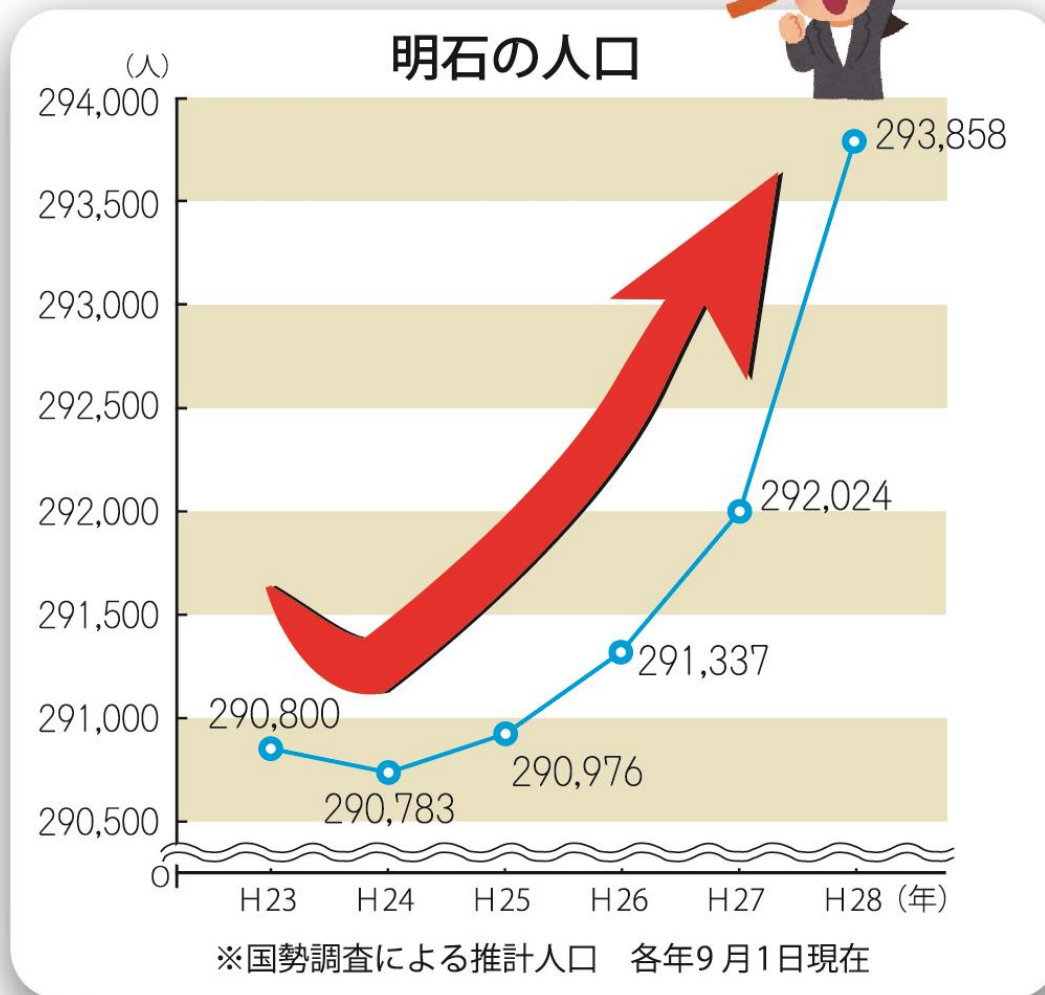
得力になると話していた。(藤井伸哉)



# 福祉の充実をまちの発展につなげる

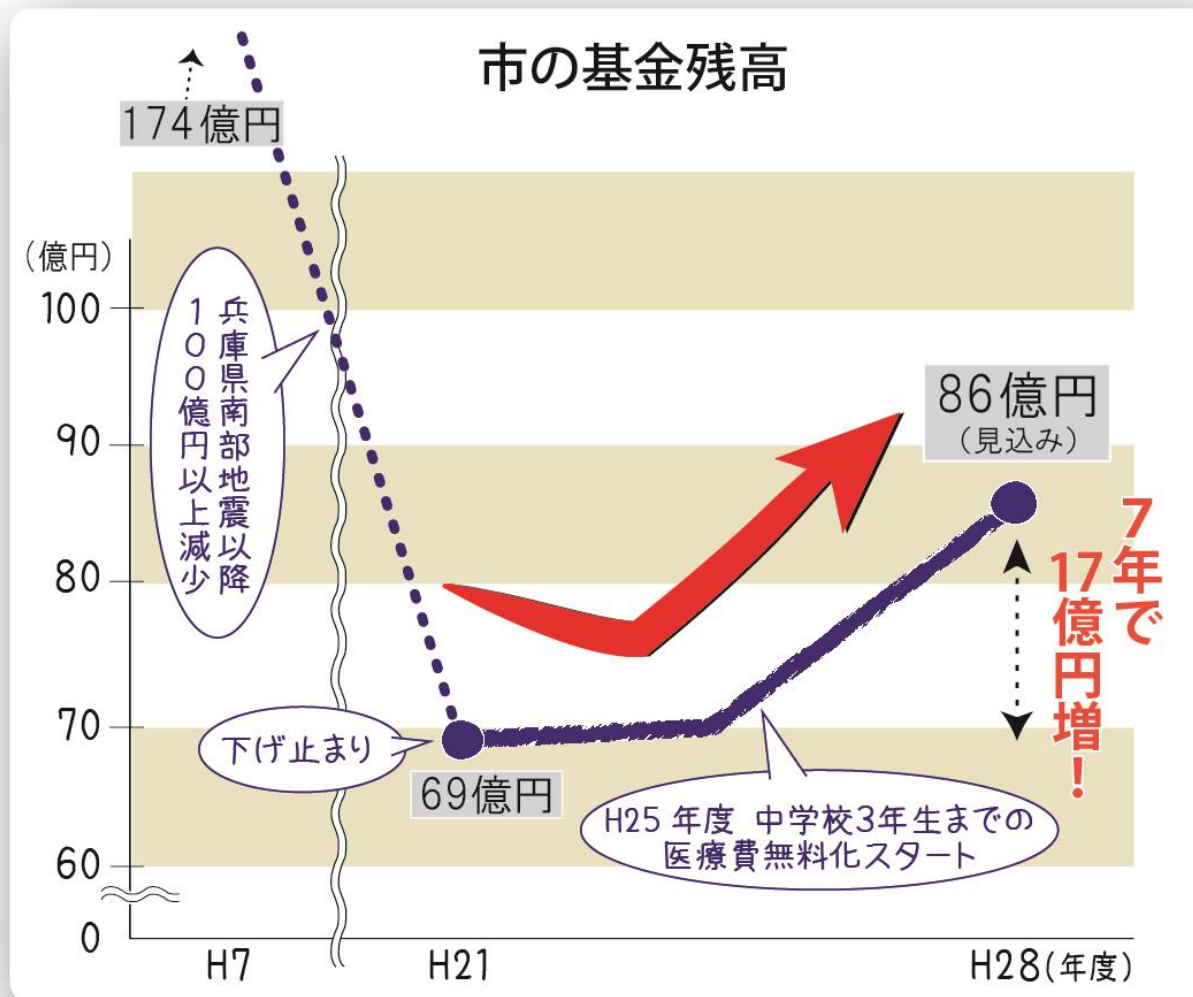


# 福祉の充実をまちの発展につなげる





# 福祉の充実をまちの発展につなげる





社会の「あたりまえ」を変える



障害者も暮らしやすくなるように、

社会全体の「あたりまえ」を

変えていきましょう！



# 「福祉を世の光に」

～私たちのまちは、もっとやさしくなれる～

ともに頑張りましょう！